２　指導案例　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ＜指導案＞

　「幼児のおやつを作ろう」～栄養満点，愛情たっぷり手作りおやつ～（１／７時）

　(1)　本時の目標

　　 ・幼児のおやつに関心をもち，幼児に適したおやつについて考えることができる。

　(2)　準備・資料

　　 ・ワークシート①　・資料集

　(3)　指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動（・予想される生徒の反応） | 教師の支援及び留意点 | ☆評価 |
| １　中学生の自分と幼い頃の自分が食べているおやつを思い出し，発表する。  　　　中学生　　　　　　幼い頃  　・ポテトチップス　　・プリン  　・焼きおにぎり　　　・たまごボーロ  　・チョコレート　　　・あめ  　・カップラーメン　　・トマト  ２　中学生と幼児の食べているおやつを比較し，違いを考える。  　・同じものだけど，食べる量が違う。  　・子ども用のビスケットは，一口サイズになっている。  　・中学生はお腹が空くからおやつを食べる。  　・幼児は胃が小さいから，食べる回数を増やさないと栄養が足りなくなる。  ３　幼児のおやつとして適しているものを考える。  幼児のおやつにはどんなものが適しているのだろう？  消化器官の未発達  ・消化にいいもの　・飲み込みやすいもの  歯が弱い  ・柔らかいもの　・噛みやすいもの  味覚が確立していない・味に敏感である  ・味の薄いもの  ・甘いもの→甘すぎない方がいい  　　　　　　→甘い必要はないのでは  その他  ・少ない量で栄養やエネルギーの豊富なもの  ・好き嫌いをなくすための調理方法の工夫  ４　幼児のおやつについて疑問点をワークシートに記入する。  　・少ない量で栄養のある食品には，どんな  ものがあるのか  　・幼児のおやつは柔らかいだけでいいのか  　・自分が幼い頃に食べていたおやつをもっと知りたい | ・朝昼晩の三回の食事以外に食べているもの（夜食など）をおやつとして考えさせる。  ・生徒の家庭環境に配慮し，無理に考えさせないようにする。  ・おやつ＝お菓子ではないことに気付かせるために，お菓子以外に食べているものに着目させる。  ・違いに気付かない生徒には，大きさや量などに着目するようアドバイスをする。  ・中学生と幼児では，おやつの目的が異なることに気付かせる。  ・中学生と幼児の身体的特徴を比較し，さまざまな視点から考えさせる。  ・幼児のおやつを手作りすることを想定させ，切り方や調理方法についても考えさせる。  ・次時の話し合いを活発にするため，疑問点を中心に，幼児のおやつについて調べてくるように指示をする。 | ☆幼児のおやつに関心をもち，中学生と幼児のおやつの違いについて考えることができたか。  （ワークシート①）【関】【知】  ☆幼児の身体的特徴に関心をもち，幼児に適したおやつについて考えることができたか。  （ワークシート①）【関】【知】 |

(4)　評価

　　・幼児のおやつについて関心をもち，幼児の身体的特徴を踏まえた上で，幼児に適したおやつについて

考えることができる。（ワークシート①）